

路政關係參考判例 (四)

高 坂 孝 三

○道路占用期間満了ト出訴ノ目的

出願ニ係ル道路占用ノ期間カ行政訴訟提起ノ當時既ニ満了セル場合ニハ之カ不許可處分ノ取消ヲ求ムル行政訴訟ハ其ノ目的ヲ缺クモノニシテ却下スヘキモノトス

(昭和十一年第二百七十六號
同十一年二月十日裁決)

○道路擴築工事ノ意義

道路擴築工事ト鋪裝工事ト併セ施行スル場合ハ大正十三年京都市告示第一一四號道路工事費特別負擔金徵收規程第二條ノ適用ニ關スル限り同條ニ所謂道路擴築工事ト解スルヲ相當トス

(昭和八年第百號
同十一年三月三日宣告)

(判決理由)原告ハ本件負擔金ハ道路擴築工事費ト鋪裝工事費トヲ區別セス總工費ノ四分ノ一ヲ標準トシテ賦課シタ

ルハ鋪裝工事費ヲ奥行二十間ヲ超ユル部分ノ有租地所有者

ニ賦課スル結果トナリ大正十三年京都市告示第一一四號道路工事費特別負擔金徵收規程第二條ニ違背シ不法ナル旨主張スルモ本件ノ如ク道路ノ擴築工事ト鋪裝工事ト併セ施行スル場合ハ同規程第二條ノ適用ニ關スル限り同條ニ所謂道路擴築工事ト解スルヲ相當トスルカ故ニ此ノ點ニ關スル原告主張ハ採用スルニ由ナシ

○收用審査會ノ裁決補償金額不服ト出訴裁判所

收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シ不服アルトキハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得レトモ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得サルモノトス

(昭和十一年第七十八號
同十一年五月十二日裁決)

○書面ニ依ル法定協議ト内容ノ説明

法定協議トシテ書面ヲ以テ申出テタル補償價額カ其ノ以前ノ協議ニ於テ申出テタル金額ト異リ且之ニ對シ何等説明ヲ附セザリシトスルモ之ヲ以テ適法ノ協議ナカリシモノト云フヲ得ス

(昭和十一年第五十八號)
同十一年六月二十七日宣告

○收用ノ目的外ノ物件ト補償

收用ノ目的物ニ非サル土地又ハ其ノ使用權ニ對シ收用審査會カ補償ノ裁決ヲ爲ササルハ當然ナリ

(昭和十一年第五十八號)
同十一年六月二十七日宣告

○土地收用補償額決定ノ標準

土地收用ニヨル損失ノ補償額ハ收用ノ時期ニ於ケル收用地ノ價格ヲ標準ト爲スヘキモノニシテ收用ノ目的タル事業ノ爲ニ收用時期迄ニ收用地ノ價格ニ高低ヲ來シタル場合ト雖其ノ高低シタル價格ニ從フヘキモノトス

(大審昭和十一年(オ)第八〇六號)
同十一年六月十六日判決

○戒告ト處分

(同趣旨前出昭和九年二月二十六日大審院判決)

道路法第五十四條ニ依リ道路ニ關シ準用セラルル行政執行

法第五條第二項ノ戒告ハ道路法第五十八條ニ所謂處分ニ非ス

(昭和十一年第九十九號)
同十一年十一月十一日宣告

○道路工事用地ノ上ニ存スル建物ノ移轉料取得期待權ノ

差押

公共團體ノ道路改修工事ノ用地ト決定セラレタル土地ノ上ニ建物ヲ有スル者カ該公共團體ヨリ一定額ノ建物ノ移轉補償料ヲ給與セラルヘキ旨ノ通知ヲ受ケタルトキハ之カ應諾ノ意志表示ヲ爲ス前ト雖右移轉補償料ヲ取得スヘキ期待權ヲ有シ此ノ權利ハ差押ノ目的タルニ妨ケナキモノトス

(大審昭和十一年(オ)第一三四二號)
同十一年十一月二十六日判決

〔判決理由〕訴外岡澤友吉カ昭和九年三月二十八日上告人

(東京府)ヨリ其ノ施行スル道路改修工事ノ爲同訴外人ノ所有ニ係ル本件家屋ヲ同年六月末限り他ニ移轉完了スルトキハ之カ移轉補償料トシテ金九百二十二圓十錢ヲ拂渡スヘキ旨ノ通知ヲ受ケタルコトハ原審ノ確定スル所ニシテ右通知ハ契約ノ申込ノ性質ヲ有スルヲ以テ之ニ對スル承諾アリ且右家屋移轉完了スルニアラサレハ上告人ニ移轉補償料ヲ

支拂フヘキ義務ノ發生セサルハ當然ナレトモ原審辯論ノ全趣旨ニ徴シ右ノ申込前既ニ右家屋ノ敷地カ本件道路改修工事ノ供用地トナリタルコトヲ認ムヘキ本件ニ於テハ實驗則上右通知當時ニ於テ既ニ右訴外人ハ右本件家屋ノ移轉ヲ完了スルニ依リ右補償料金ノ拂渡ヲ受クヘキ權利ヲ有スルニ至ルモノト解スヘキヲ以テ同訴外人ハ右ノ申込ヲ受諾スル前ニ於テモ將來右補償料金ヲ取得スヘキ一種ノ期待權ヲ有スルモノト謂フヘク斯カル期待權ハ之ヲ自由ニ處分シ得ヘキコト法律ノ許容スル所ナレハ之カ差押モ亦有効ト解スヘキモノトス

○土地收用手續書類ニ於ケル所有名義ノ誤謬訂正其ノ他表示誤記ト其影響

一、土地收用法第二十二條第一項ノ協議及同法第二十三條第二項ニ依ル收用審査會ノ裁決ヲ求メタルコトノ通知ニ於テ所有者ヲ誤テ賃借人ト表示シタルコトノミヲ以テ右協議及通知ナシト謂フヲ得ス

一、土地收用法第二十四條第二項ニ依リ收用裁決申請ノ關

係書類カ公告セラレ公衆ノ縦覽ニ供セラレタル場合ニ於テ其ノ裁決申請書中土地ノ所有者ヲ賃借人ト爲シタル誤謬アリタルコトノミニ依リテ該土地ニ付同條項ニ依ル公告ナシト謂フヲ得ス

一、土地ノ收用及使用ニ付其ノ土地ノ所有者名義ヲ誤レルコトアルモ土地收用法所定ノ手續カ何レモ有効ニ履踐セラレ而モ右所有者名義ノ誤謬カ收用審査會ノ裁決前訂正セラレタル場合ニ於テハ該裁決ハ違法ニ非ス

一、土地ノ收用及使用ニ付其ノ土地ノ所有者ヲ誤テ關係人即チ賃借人トシテ表示セラレタルモ土地收用法第二十四條第二項ノ公告カ有効ニ爲サレタル場合ニ於テハ該土地所有者ハ意見書ヲ提出シ所有者名義ノ誤謬ヲ指摘シ正誤ヲ求メ得ヘキモノトス

○土地收用法上ノ協議及其方法

(昭和九年第三百五十號
昭和十一年十一月二十六日宣告)

一、事業認定ノ公告前ニ於ケル起業者ノ土地物件ニ關スル權利取得ノ申込ハ土地收用法上ノ協議ニ非ス

一、起業者カ土地所有者又ハ關係人ニ對シ書面ヲ以テ一定

ノ補償金額ヲ示シ之カ諾否ヲ求ムルモ之ヲ土地收用法上ノ協議ニ非スト爲スヲ得ス

一、起業者カ土地所有者又ハ關係人ニ對シテ爲ス協議ニ付テハ通常ノ狀態ニ於テ協議ヲ受ケタル土地所有者又ハ關係人ヨリ起業者ニ對シテ口頭又ハ郵便ヲ以テ之カ回答ヲ爲スニ必要ナル期間ヲ存スレハ足ルモノト認ムルヲ相當トス

(昭和九年第三百三十六、七號
十二年五月六日宣告)

〔判決理由〕原告庄次郎ハ起業者カ書面ヲ以テ地上物件移轉ノ補償金ヲ二千九百二圓七十七錢トシ之カ移轉ノ承諾ヲ求メ來リタルモ斯クノ如ク書面ヲ以テ一定ノ金額ヲ示シ之カ諾否ヲ求ムルカ如キハ收用法上ノ協議ニ非ス而モ起業者ハ曩ニ原告ノ地上物件移轉ニ付二千九百二圓七十七錢ノ補償金ヲ以テ承諾ヲ求メ置キタルニ拘ラス原告力之ニ對シテ同意ノ回答ヲ爲ササルヤ土地物件調書作成後タル昭和九年六月二十七日ニ至リ二千四百五十圓ノ補償金ヲ以テ地上物件ノ移轉ノ承諾ヲ書面ヲ以テ而モ之カ回答ヲ僅カ五日間後ノ七月三日迄ニ爲スヘク通知シ來リタルカ如キハ土地收用

法上ノ協議ト云フヲ得サル旨主張スルモ起業者カ補償金二千九百二圓七十七錢ヲ以テ移轉ノ承諾ヲ原告ニ求メタルハ昭和八年八月三十一日以前ノ事ニ屬スルコトハ甲第一號證(承諾書)ニ依リ明ナルヲ以テ本件事業ニ付未タ内務大臣ノ事業認定ノ公告前ニ係ルモノナルカ故ニ右ハ土地收用法上ノ協議ニ非ス從テ本件裁決ニ何等ノ關係ナキモノナルノミナラス土地收用法又ハ其ノ附屬法令中協議ノ方法ニ付何等規定スル所ナキヲ以テ起業者カ土地所有者關係人ニ對シ書面ヲ以テ一定ノ補償金額ヲ示シ之カ諾否ヲ求ムルモ之カ爲ニ土地收用法上ノ協議ニ非スト爲スヘキ理由ナク協議ニ對スル回答期間ニ付テモ通常ノ狀態ニ於テ土地所有者又ハ關係人ヨリ起業者ニ對シテ口頭又ハ郵便ヲ以テ回答スルニ必要ナル期間ヲ存スレハ足ルモノト認ムルヲ相當トシ原告住所地下起業者タル大阪土木出張所所在地トノ距離竝右土地收用法上ノ協議以前ニ起業者ヨリ原告ニ對シテ物件移轉ニ付交渉アリタルコトノ原告主張自體ニ依ルモ明ナル本件ニ於テハ右五日ノ期間ハ原告ヨリノ回答ニ必要ナル期間ヲ

存セサルモノト認ムルヲ得サルヲ以テ此ノ點ニ關スル原告主張ハ採用スルヲ得ス

○隣接地ニ跨ル地上物件ト調書作成

收用地ト之ニ隣接スル土地トニ跨リテ物件ノ存在シ物件所有者カ該物件全部ノ移轉ヲ爲スノ必要アリトスル場合ニ於テモ土地物件ノ調書作成ニ付起業者カ土地所有者又ハ關係人ニ爲ス立會等ノ通知ニ收用地ノ地番ノミヲ記載シ右隣接地ノ地番ヲ記載セサリシトスルモ起業者ハ右隣接地ノ物件ニ付テ調書ヲ作成スルハ違法ニ非ス

(昭和九年第三百三十六、七號)
同十二年五月六日宣告)

〔判決理由〕原告ハ本件收用ニ付起業者カ原告ニ對シテ爲シタル土地立入ノ通知書及土地物件調書作成ニ付テノ立會ノ通知書其ノ他之ニ關連スル書類ニハ立入場所トシテ大阪府泉北郡高石町南一三〇番ノ二ノミヲ記載シ同番ノ一ヲ記載セサルヲ以テ起業者カ同番ノ一ニ所在スル物件ニ關シ作成シタル調書ハ違法ノモノナル旨主張スルモ係争地ノ内起業者カ道路敷トシテ必要トスルハ一三〇番ノ二ノミニ

法 令

シテ同番ノ一ニ非サルコト從テ收用ヲ必要トスル借地權モ亦同番ノ二ニ在ルモノニ限ルモノナルコト原告所有ノ家屋其ノ他地上物件カ右二筆ノ土地ニ跨リテ存在スルコト原告ハ右家屋其ノ他ノ地上物件ノ全部ノ移轉ヲ必要ナリトシ之カ補償ヲ要求セルコト又借地權ニ付テハ同番ノ一ニ在ルモノノ擴張收用ヲ請求セルコトハ原告ノ争ナキ所ナルカ故ニ起業者カ立入其ノ他ノ通知書ニ同番ノ一ヲ記載セサルニ拘ラス同番ノ二ノ地上物件ト一體不可分ノ關係ニ在ル同番ノ一ノ地上物件ニ付調書ヲ作成スルモ違法ニ非スト解スルヲ相當トス

○土地物件調書ノ作成要件並効力

土地物件ノ調書ハ現場ヲ調査セサル者カ自己ノ名ヲ以テ作成シ若クハ現場ニ立會セサル者カ立會人トシテ署名シタルハ違法ノモノナレトモ斯クノ如キ違法アル調書ハ土地收用法第二十一條末項ニ規定セル効力ヲ認メラレサルニ止マリ之カ爲ニ直ニ土地收用ノ裁決ヲ違法ナリト爲スコトヲ得サルモノトス

(昭和九年第三百三十六、七號)
同十二年五月六日宣告)

一七七

〔決判理由〕土地收用法第二十一條第一項ニ依リ作成スル土地物件ニ關スル調査ハ現場ヲ調査シタル者カ自己ノ名ヲ以テ作成スヘキモノニシテ同條第二項ニ依ル市町村長ノ立會ハ現場ニ於ケル調査ニ現場ニ於テ立會フコトヲ要スルノ法意ナリト解スヘク從テ現場ニ立會ハサル市町村長カ立會人トシテ署名シタル調査書若クハ現場ヲ調査セサル者カ自己ノ名義ヲ以テ作成シタル調査ハ何レモ違法ノモノナレトモ斯クノ如キ違法アル調査ハ同法第二十一條末項ニ規定セル効力ヲ認メラレサルニ止マリ之カ爲ニ直ニ土地收用ノ裁決ヲ違法ナリト爲スコトヲ得サルモノナルコトハ當裁判所昭和三年第百八十九號事件(昭和五年二月二十日宣告)ノ判決ニ示ス所ノ如クナルヲ以テ假令本件物件調査ノ作成名義人ハ現場ニ於テ調査シタル者ニ非スシテ調査シタル者ハ其ノ命ヲ受ケタル大阪土木出張所ノ官吏又立會名義人ハ現場ノ調査ニ立會ヒタル者ニ非スシテ立會ヒタル者ハ其ノ命ヲ受ケタル高石町書記ナルカ爲ニ本件物件調査ニ違法ノ點アリトスルモ此ノ故ノミニ依リ之ニ基キテ爲サレタル本件裁決ヲ

違法ト爲スコトヲ得サルヲ以テ此ノ點ニ關スル原告ノ主張ハ失當ナリ

○内務大臣ノ國道ノ新設又ハ改築ト土地收用法ニ依ル事業認定

内務大臣ハ道路法施行令第十條ノ二ノ規定ニ依ル道路ノ路線名區間及工事開始ノ期日ノ告示ヲ爲スニ非サレハ土地收用法上起業者トシテ國道ノ新設又ハ改築ニ付同法ニ依ル事業認定ヲ受クルノ權限ナキモノト解スルヲ相當トス

(昭和九年第三百三十六、七號)
同十二年五月六日宣告

〔判決理由〕道路法第十七條同第二十條ノ各規定ニ依レハ國道ノ管理者ハ府縣知事ニシテ國道ノ新設、改築、修繕及維持ハ管理者タル府縣知事ノ權限ニ屬シ内務大臣ハ必要アリト認ムルトキニ限り國道ノ新設又ハ改築ヲ爲スコトヲ得ルニ止マリ而モ其ノ場合内務大臣ハ道路管理者ノ權限ヲ命令ノ規定スル所ニ從ヒ行使スルニ過キス而シテ道路法施行令第十條ノ二ノ規定ニ依レハ内務大臣カ國道ノ新設又ハ改築ヲ爲スニハ豫メ官報ヲ以テ其ノ道路ノ路線名、區間及工

事開始ノ期日ヲ告示スヘキモノナルヲ以テ内務大臣ハ右告示以前ニ於テハ國道ノ改築ニ付テ道路管理者ノ權限ヲ行使スルヲ得ス從テ右告示以前ニ於テハ國道ノ改築ノ爲ニ必要ナル土地ニ關スル權利ノ收用竝地上物件ノ移轉ノ爲ニ土地收用法ニ依ル事業認定ヲ受クルノ權限ナキモノト解スルヲ相當トス

○事業認定ト土地收用法上ノ損失

事業認定以前ニ於テ起業者ト借家人トノ間ニ立退ノ協議カ成立シ且立退カ實行セラレタルトキハ關係人カ借家人ノ立退ニ因リ損失ヲ蒙リタリトスルモ之ヲ土地收用ニ因ルモノト爲スヲ得ス

(昭和九年第三百三十六、七號)
同十二年五月六日宣告

〔判決理由〕原告庄次郎ハ其ノ所有ニ係ル地上物件タル家屋ヲ賃貸セル起業者ト借家人佐々木某及吉澤某トノ間ニハ昭和八年九月十日同齋藤某トノ間ニハ同月二十四日立退ノ協議調ヒ右借家人ハ即日立退キタルヲ以テ原告ハ其ノ立退ノ日ノ翌日ヨリ裁決ニ示ス收用ノ時期ニ至ル迄ノ右家賃ニ相當スル額ノ損失ヲ蒙リタルニ拘ハラズ被告カ其ノ補償ノ

裁決ヲ爲ササルハ違法ナル旨主張スルモ本件裁決ハ前段説明ノ如ク昭和九年一月二十三日ノ事業認定ニ基キ爲サレタルモノニシテ右ノ起業者ノ借家人ニ對スル立退ノ協議ノ成立竝立退ハ未タ事業認定ナキ以前ノ事ニ屬シ土地收用法上ノ協議ニ依リタルモノニ非サルヲ以テ右家賃ニ相當スル額ヲ以テ本件收用ニ因ルモノト爲スヲ得サルカ故ニ此ノ點ニ關スル原告ノ主張モ亦採用スルヲ得ス

○補償金額ニ對スル不服ト裁決取消ノ請求理由

地上物件ノ移轉カ多額ノ費用ヲ要シ裁決ニ示ス補償金額ヲ以テ不十分ナリトスルコトハ行政裁判所ニ於テ收用審査會ノ裁決ノ取消ヲ求ムル理由ト爲スヲ得ス

(昭和九年第三百三十六、七號)
同十二年五月六日宣告

〔判決理由〕原告庄次郎ハ本件地上物件ハ建坪七十坪餘ノ家屋及二百四十坪ノ宅地内ノ竹木井戸下水等ノ工作物ニシテ而モ之カ移轉ノ時期ハ昭和九年九月二十一日ノ關西大風水ノ災害後ニ屬シ之ヲ二十日間ニ移轉スルコトハ極端ニ多額ノ費用ヲ投スレハ格別然ラサルニ於テハ殆ト不可能ナル

ヲ以テ本件裁決ハ移轉期間ノ短キニ過クル違法ノモノナル旨主張スルモ原告ノ主張ハ畢竟スルニ本件地上物件ノ移轉ノ時期カ關西大風水ノ災害後ニ屬シ然モ二十日ノ期間内ニ移轉ヲ了スルニハ多額ノ費用ヲ要シ裁決ニ示ス補償金額ヲ以テハ不十分ナリト云フニ歸ス斯クノ如キハ補償金ノ額ニ對スル不服ノ理由ト爲シ民事裁判所ニ於テ補償金額ノ當否ヲ争フハ格別當裁判所ニ於テ本件裁決ノ取消ヲ求ムルノ理由ト爲スヲ得サルヲ以テ此ノ點ニ關スル原告ノ主張ハ理由ナシ

○買戻權行使ノ要件

土地收用法第六十六條第三項ハ第一項ノ規定ノ適用ニ關シ制限的規定ヲ設ケタルモノトス即チ起業者カ事業ヲ廢止シタル場合ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ收用地ノ買受ヲ爲シ得ル爲ニハ單ニ其ノ事業ノ廢止アリシコトヲ以テ足レリトセス起業者カ收用ノ時期ヨリ二十ヶ年内ニ其ノ土地ヲ軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル他ノ事業ニ供スルコトナカリシコトヲ必要トス (大審大正十三年(才)第八二三號同十四年六月五日判決)

〔判決理由〕土地收用法第六十六條第一項ニ依レハ收用土

地ノ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ收用時期ヨリ二十箇年内ニ起業者ノ事業ノ廢止ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ之ヲ買受クルコトヲ得ヘキモノナルモ同條第三條ハ「第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス」ト規定シテ第一項ノ規定ノ適用ニ關シ制限的規定ヲ設ケタルヲ以テ起業者カ事業ヲ廢止シタル場合ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ收用地ノ買受ヲ爲シ得ルハ單ニ其ノ事業ノ廢止アリシコトヲ以テ足ルコトナク起業者カ收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ其ノ土地ヲ軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル他ノ事業ニ供スルコトナカリシコトヲ必要トス

○土地收用法第六十六條第三項ニ於ケル土地ノ

供用ト事業認定ノ時期

土地收用法第六十六條第三項ハ同一土地ニ付收用手續ヲ反覆スルコトノ煩ヲ避ケタルコトヲ目的トスル規定ナルヲ以テ

荷クモ内閣ノ事業ノ認定ト土地ノ供用トカ收用ノ時期ヨリ二十箇年内ナルトキハ假令内閣ノ事業ノ認定カ土地ヲ其ノ事業ニ供用シタル後ニ係ル場合ニ於テモ其ノ適用アルモノトス

(大審大正十三年(オ)第八二三號
同十四年六月五日判決)

〔判決理由〕起業者カ收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ事業ヲ廢止シタルモ其ノ收用地ヲ同一期間内ニ内閣ノ認定シタル他ノ事業ニ供シタルトキハ舊所有者又ハ相續人ト雖モ其ノ收用地ヲ買受クルコトヲ得サルモノニシテ荷クモ内閣ノ事業ノ認定ト土地ノ供用トカ收用ノ時期ヨリ二十箇年内ナルトキハ假令内閣ノ事業ノ認定カ土地ヲ其ノ事業ニ供用シタル後ニ係ル場合ニ於テモ第六十六條第三項ノ適用アルモノトス蓋シ同條項ハ同一土地ニ付收用手續ヲ反覆スルコトノ煩ヲ避クルコトヲ目的トスル規定ナルヲ以テナリ然ラハ起業者カ收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ事業ヲ廢止シ舊所有者又ハ相續人ニ於テ内閣カ事業ノ認定ヲ爲ス以前ニ收用地買受ノ意志表示ヲ爲シタリトスルモ收用地ヲ土地收用法第二條ニ到舉スル事業ノ一ニ供シ後日内閣カ其ノ事業ニ付認定

ヲ爲シ而カモ其ノ認定ノ時期カ收用ノ時期ヨリ二十箇年内ナリシトキハ第六十六條第三項ノ適用ニ依リ舊所有者又ハ其ノ相續人ノ爲シタル買受ノ意志表示ハ其ノ効力ヲ發生セサルモノト解スルヲ相當トス本件ニ付原審ノ確定シタル事實ニ依レハ係争地ハ被上告人カ明治三十四年三月二十七日巢鴨病院用地トシテ土地收用法ニ依リ收用シ得ヘキコトノ認定ヲ受ケ翌三十五年ニ至リ收用シタルニ被上告人ハ大正八年十一月同病院ヲ他ニ移轉シ他面既ニ大正七年中右土地ノ上ニ府立第五中學校々舍ヲ建築シテ其ノ敷地ニ使用シ大正九年五月十五日土地收用法ニ依リ右事業ニ係争地ヲ收用シ得ヘキコトノ内閣ノ認定ヲ受ケタルトコロ上告人等ハ右認定前同年四月十四日被上告人ニ對シ收用地カ不用ニ歸シタルモノトシテ買受ノ意志表示ヲ爲シタルモノトス然ラハ係争地ハ收用法第六十六條第三項ノ適用ニ依リ不用ニ歸シタルモノト看做ササルモノナルヲ以テ上告人等カ内閣ノ事業認定前ニ收用地買受ノ意志表示ヲ爲シタリトスルモ該意志表示ハ其効力ヲ生セサル旨ヲ判示シテ上告人等ノ請求ヲ

排斥シタル原判決ハ洵ニ正當ニシテ論旨ハ理由ナキモノトス

○井戸トシテ移轉ノ要否

構造粗末狭小ニシテ水質汚濁飲用ニ供スルヲ得ス僅ニ道路ノ撒水等ニ使用シ居ルニ過キササルカ如キ井戸ハ井戸トシテ移轉ノ價值ナシト認ムルヲ相當トス

(昭和五年第三百五十二號
同七年三月二十九日宣告)

〔判決理由〕係争ノ所謂井戸ナルモノハ檢證ノ結果ニ依レハ其ノ位置ハ檢證圖ニ示スカ如ク鐵道線路ヲ西側ニ並行セル木柵ノ間線路中心點ヨリ九尺七寸ノ距離ノ所ニ在リテ地表ヨリ水面迄五尺三寸水深ハ二尺六寸ニシテ地表ヨリ下ノ構造ハ相當古キセメント空樽ト認メラルル粗末ノ木製圓筒形ノモノ三箇ヲ積ミ重ネタルニ止マリ何等他ニ施設セラレタルモノナク恰モ地中ノセメント樽ノ中ニ水ノ溜リ居ルカ如キ觀ヲ呈スルノミ而モ右セメント樽様ノモノ上部ニ在ルモノハ高サ二尺三寸直徑一尺三寸ニシテ其ノ下部ノモノハ順次ニ狭小ナルノミナラス水質亦汚濁シテ飲用ニ供スルヲ

得サルモノナリ且右井戸ハ原告ノ主張ニ從フモ以前田用水ニ用キ居リシモ現在ハ其ノ必要ナキニ至リ僅ニ道路ノ撒水等ニ使用シ居ルニ過キササルモノナリ此ノ如キモノハ井戸トシテ移轉ノ必要ナキモノト認ムルヲ相當トス

○收用地外ニ跨ル建物ノ全部移轉ノ要否

收用地域内ニ存在スル部分ト殘地ニ存在スル部分トカ一體ヲ爲シ居ルモノト認メラルル建物ニ付テハ收用地域内ニ存在スル部分ノ移轉ヲ必要トスル結果ハ土地收用法第五十一條ニ所謂物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレハ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキニ該當ス

(昭和五年第六十二號
同七年四月二日宣告)

〔判決理由〕按スルニ第一收用地域内ニ存在スル店舗用ノ部分カ商店街ニ面シ二階建木造瓦葺ニシテ間口五間奥行二間一分七厘建坪十一坪五合餘ニシテ階段ノ外階下ニハ板張(六疊)及板ノ間ノ二室ノ外ニ押入階上ニハ板張物揚一室アリテ米屋ノ店舗ニ供スル目的ヲ以テ建築セラレタルモノナルコトハ原告ノ争ナキ所ナルニ因リ未タ米屋トシテハ現實

ニ使用セラレタルコトナシトスルモ右ノ部分ハ米屋ノ店舗ヲ目的トスルモノト認ムルヲ相當トス而シテ右部分ニハ寢食ノ用ニ當ツヘキ居室ナク殘地ニ存在スル部分カ現ニ住居ニ使用セラレ居ルモノナルコトモ亦當事者間爭ナキ所ナルカ故ニ本件收用地域内ニ存在スル部分ト殘地ニ存在スル其ノ餘ノ部分トハ不可分ノ一體ヲ爲シ居ル建物ト認ムルヲ相當トス從テ本件收用ニ因リテ收用地域内ニ存在スル部分ノ移轉ヲ必要トスル結果ハ土地收用法第五十一條ニ所謂物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレハ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキニ該當スルヲ以テ本件收用地ノ屬スル地番内ニ存在スル建物ノ中土藏ニ棟ヲ除キタル其ノ餘ノ建物ノ全部竝燈籠鉢前庭石樹木井戸給水設備竝排水設備ハ之ヲ移轉スルヲ要シ原告ハ之カ全部ノ移轉料ヲ補償スルヲ要スルモノト云ハサルヘカラス

○軌道法ノ適用ナキ軌道ト地上物件ノ移轉

一般交通ノ用ニ供セサル軌道ニ付テハ軌道法ニ依リ買收スルコトナク土地收用法第五十一條第一項前段ノ規定ヲ適用

スルモノトス

(昭和三年第百八十二號
同七年十月二十日宣告)

〔原告主張〕原告ハ意見書ヲ以テ本件軌道ハ土地收用法上ノ地上物件ニ非スシテ同法ノ適用ヲ受クヘキモノニ非サル旨申立テタルニ對シ被告ハ本件軌道ハ軌道法第一條第二項ノ一般交通ノ用ニ供セサル軌道所謂專用軌道ニモ該當セサル收用地上ノ單ナル地上物件トシテ一部撤去ヲ是認シ土地收用法第五十一條第一項前段ノ規定ヲ適用シテ物件移轉料ノ補償ノミヲ以テ足レリト爲スモ該裁決ハ違法ナリ抑本件軌道ハ軌道法第一項第二項ニ規定セラレタル所謂專用軌道ナルカ故ニ同法並ニ大正十二年內務省令第四十五號ノ支配ヲ受クヘキモノニシテ本件ノ如ク國又ハ公共團體カ公益上必要トスル場合ニ於テハ土地收用法第二條ノ二ノ適用ヲ俟タス即チ收用ニ關シ特別ノ必要如何ヲ論セス直ニ買收セラレ得ヘキ性質ノモノナリ從テ內務省令第四十五號第五條ニ依リ軌道法第十八條第十九條ノ準用並ニ同法第二十六條ノ類推適用ニ依リ(中略)買收セラルヘキモノニシテ土地收用法上ノ目的ト爲シ得サルモノトス

〔判決理由〕原告ハ軌道ハ土地收用法上ノ地上物件ニ該當セサルカ故ニ同法ヲ適用スヘキモノニ非シテ軌道法ニ依リ之ヲ買収スヘキモノナリト云フモ本件軌道カ一般交通ノ用ニ供セサル軌道ナルコトハ當事者間爭ナキ所ニシテ斯クノ如キ軌道ニ軌道法ノ適用ナキコト同法第一條第一項ノ規定ニ徴シ明瞭ナルヲ以テ右主張ハ理由ナシ

○塙柵設置ノ要否

人家商店櫛比シ街路四通交通便利ニシテ隣接土地トハ格段ナル高低ノ差ナキ状態ニ在ル殘地ニハ他ヨリノ侵入ヲ防止スル爲メ收用地トノ間ニ塙柵ヲ設置スルノ必要アリ

（昭和六年第二百十九號）
（同七年十二月二十七日宣告）

〔判決理由〕本件收用地カ元工場敷地タリシ一面ノ平地ヲ帶狀ニ貫通シタルモノニシテ從テ右收用地ト其ノ殘地トハ格段ナル高低ノ差ナキコトハ當事者間ニ爭ナキ所ニ係リ第一回檢證調書ノ記載ニ依レハ係爭地附近ハ大體ニ於テ人家商店櫛比シ街路四通シ交通便利ニシテ係爭地ト其ノ隣接土地トハ格段ナル高低ノ差ナキモノナルカ故ニ斯カル状態ニ

在ル殘地ニハ他ヨリノ侵入ヲ防止スル爲メ收用地トノ間ニ塙柵ヲ設置スルノ必要アリト認ムヘク從テ本件收用地ノ南北兩側合計延長七十二間餘ニ沿ヒ塙柵ヲ設置スルノ費用ハ之ヲ補償スヘキモノトス

○道路設置費用補償ノ範圍

收用ニ因リ通常ノ事情ノ下ニ必要ヲ生シタルニ非サル道路設置ノ費用ハ之ヲ補償スルヲ要セサルモノトス

（昭和六年第二百十九號）
（同七年十二月二十七日宣告）

〔判決理由〕本件收用地ノ南北兩側殘地内ノ道路ハ原告ノ主張ニ依ルモ證人本田林八ノ「（前略）要ハ殘地ノ使用方法如何ニヨルモノテアル該殘地ヲ一團ノ土地トシテ使用スルニハ一モ道路ヲ設クル必要ナキモ（中略）三四個ノ家ヲ建テルトスレハ道路ヲ設クル必要アリ（下略）」トノ供述竝ニ甲第十號證（市街地建築物法施行規則）及同第十一號證（市街地建築物法案内）ノ各記載ニ徴スルモ右殘地ヲ住宅地商店地ノ如キ特定ノ用法ニ供スル場合ニ限り之ヲ設置スルノ必要アルニ過キサルモノナルカ故ニ本件收用ニ因リ通常ノ

事情ノ下ニ必要ヲ生シタルモノト謂フコトヲ得ス從テ之ヲ設置スルノ費用ハ之ヲ補償スルヲ要セサルモノトス

○運動場擴張ト土地收用ノ要否

從來ノ運動場カ學校教練ノ爲ニ狹隘ニシテ係争地ヲ收用シ校地ト爲スモ辛ウシテ教練ヲ施行シ得ルニ過キス收用地ヲ加ヘタル運動場カ學生數學科課程等同程度ノ他校ノ運動場ニ比シ其ノ面積過大ニ非サルトキハ係争地ハ收用ノ必要アリ

(昭和七年第二百四號
同八年十二月十四日宣告)

○金額不服ト協議不調

起業者カ土地ノ讓渡竝地上物件ノ移轉ニ關シ土地所有者ニ協議ヲ爲シ右確答期限迄ニ確答ナキトキハ協議ニ應セサルモノト看做シ收用審査會ノ裁決ヲ申請スヘキコトヲ通知シタルニ土地所有者カ補償金額何レモ寡少ニ失スルノミナラス豫テ申出置キタル補償ノ提示ナキニ於テハ協議ニ應セサル旨ノ回答ヲ爲シタルトキハ協議不調ニ歸シタルモノト認ムルヲ相當トス

(昭和十年第一百六十九號
同十年十二月二十八日宣告)

〔判決理由〕原告ハ收用地上ノ物件ハ之ヲ他ニ移轉セシム

ルヲ原則トスルヲ以テ殘地上ノ建物ト雖モ其ノ殘地ヲ收用スル場合ニ於テ起業者カ其ノ收用ノ裁決ヲ申請スルニハ移轉料ノ補償ニ付協議シ協議調ハサルコトヲ其ノ要件ト爲スモノナルニ拘ラス起業者ハ原告ニ對シ收用スヘキ殘地上建物ノ移轉料ノ補償ニ付何等協議スル所ナクシテ之カ收用ノ裁決ヲ被告ニ申請シ被告カ右申請ニ基キ之カ收用ノ裁決ヲ爲シタルハ違法ナルノミナラス當事者ノ申立ノ範圍ヲ超ユル不法ノモノナル旨主張スルモ起業者ハ昭和九年十二月十日附ヲ以テ原告所有ニ係ル糸魚川町大字新屋宇新屋六二番ノ二及同番ノ三ノ宅地ノ内八十坪九合五勺ヲ道路改良ノ爲必要ナリトシ一坪四十圓ノ補償價格ヲ以テ之カ讓渡方ヲ原告及關係人ニ對シ協議シタルコト前記宅地上ニ在ル原告所有物ノ移轉方ヲ原告ニ協議シタルコト右協議ニ對スル確答ノ期限ヲ同月十七日トシ右期限迄ニ確答ナキトキハ協議ニ應セサルモノト看做シ收用審査會ノ裁決ヲ申請スヘキコトヲ通知シタルコト原告ハ起業者ノ右協議ニ對シ補償金額何レモ寡少ニ失スルノミナラス原告ヨリ豫テ申出置キタル土

地收用法第四十九條第五十三條第五十四條ニ依ル補償ノ提
示ナキニ於テハ右協議ニ應セサル旨ノ回答ヲ爲シタルコト
ハ當事者間ニ爭ナキ所ナルヲ以テ起業者ハ土地收用法第二
十二條ニ依リ前示土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲メ土地所
有者及關係人ニ對シ適法ニ協議ヲ爲シタルモ協議不調ニ歸
シタルモノト認ムルヲ相當トス

○國道ノ新設ナリヤ改築ナリヤノ認定

一路線ノ一區間ノ工事ニ係ル國道カ已存ノ國道ト數箇所ニ
於テ稍離レ居ルモ其ノ他ニ於テハ已存ノ國道ト交叉又ハ同
シ位置ニ若クハ之ト接近シテ施設セラルルモノナルトキハ
已存ノ國道ヲ改修スルモノニシテ已存ノ國道ト別個ノ國道
ヲ新設スルモノニ非スト解スルヲ相當トス

(昭和九年第三百三十六、七號
同十二年五月六日宣告)

〔判決理由〕原告ハ本件内務大臣ノ施行ニ係ル事業ハ舊國
道ト別個ニ相當ノ距離ノアル場所ニ道路ヲ新設スルモノナ
ルカ故ニ道路ノ新設ニシテ舊國道ノ改築ニ非ス然ルニ被告
カ本件事業ニ付テノ事業認定ノ公告ナリト主張スル昭和九

年一月十三日附公告ニハ「事業ノ種類、道路ノ改築」トア
ルヲ以テ右公告ハ本件事業ノ認定ノ公告ト認ムルヲ得サル
カ故ニ本件事業ニ付テハ事業認定ノ公告ナキモノナル旨主
張スルモ本件事業カ大阪市ヨリ和歌山市ニ通スル國道第十
六號線中昭和六、七年度ニ於テ内務省直轄ノ下ニ執行セル
部分ニ接續スル大阪府泉北郡高石町羽衣地内ヨリ同郡大津
町下條地内ニ至ル延長四千八百七十米ノ區間ニ於ケル國道
ノ工事ニ關スルモノナルコトハ原告ノ爭ハサル所ニシテ被
告提出ノ同區間ニ於ケル被告主張ノ改修國道カ赤線ヲ以テ
圖示セラレタルモノナルコトニ付原告ノ爭ナキ陸地測量部
地圖(中略)ニ於テハ右國道ハ係爭地其ノ他二三箇所ニ於
テ已存ノ國道ト稍離レ居ルモ其ノ他ニ於テハ已存國道ト交
又シ又ハ同シ位置ニ若クハ之ト接近シテ施設セラレアルコ
トヲ認ムルニ十分ナルヲ以テ本件事業ハ已存ノ國道ヲ改修
スルモノニシテ已存ノ國道ト別個ノ國道ヲ新設スルモノニ
非スト解スルヲ相當トスルカ故ニ此ノ點ニ關スル原告ノ主
張ハ理由ナシ

終——(次號索引)